

今回、このような形で、私から部課長へ訓示を行うこと自体、異例のことであり、憂慮すべき事態であります。

先週、消防職員が、「公然わいせつ罪」の容疑で逮捕されるという、あってはならないことを犯してしまったことは、被害者をはじめ、市民の皆様に、大変申し訳なく、私自身、責任を痛感しているところです。

先の教育委員会職員の逮捕を受け、臨時部長会議を通じ、全職員に対して、厳しく指導徹底するようお願いするとともに、市を挙げて抜本的な再発防止策を早急に取りまとめ、再発の防止と市職員の信頼回復に全庁を挙げて取り組もうとしていた矢先の事態であり、私自身、言葉にならない程、誠に遺憾であり、悔しい気持ちで一杯です。

市民の皆様に対して顔向けができず、大変恥ずかしい限りで、お詫びの言葉もありません。「市は何をやっているんだ」と言われても致し方ありません。

これで、平成 26 年度以降 5 年間で、職員の逮捕が 7 人、特に今年に入ってから、2 月、5 月、そして今回と、3 人の職員が逮捕されるという異常な事態になってしまいました。

いまだかつてないような、危機的な状況にあることを認識していただきたい。

また、これまでの、どの事件も決して許されるものではありませんが、今回は、発覚が確実にされる犯罪であり、なぜ、このような事件を起こしたのか、これまで以上に深刻に捉えなければなりません。

こうした異常事態ともいえるべき不祥事の連鎖を断ち切るため、内部の職員だけでなく、外部有識者を交えるなどして、不祥事の発生要因などを詳しく調査・分析したうえで有効な再発防止策を取りまとめなければならない状況を、職員はしっかりと頭に置いていただきたい。

市議会においては、平成 28 年 12 月に「桐生市職員の綱紀肅正及び服務規律遵守を求める決議」が行われ、今回、各派代表者会議において「桐生市職員不祥事再発防止調査特別委員会」の設置が決まりました。このことを、職員は特に重く受け止める必要があります。

部課長は、現在の桐生市の置かれた状況を、強く認識するとともに、改めて、職員一人一人に、しっかりと伝えていただきたい。特に職員の不祥事は、被害者やそのご家族はもちろん、職場や職員の家族、友人、地域に計り知れない影響を及ぼすことをよく考えていただきたい。

一度失った信頼を取り戻すには、並々ならぬ労力を費やす必要があります。

また、このような状況の中、職員の服装、挨拶、窓口対応などをとらえて、市民から批判されてしまうことのないよう、改めて見直し、しっかりと対応する必要があります。

全職員が、職員としての自覚のもと、責任ある行動をとるとともに、常に襟を正して、市民の模範となる行動をとるよう、お願いしたい。

私は、職員が日々しっかりと業務にあたっていることに感謝申し上げ、これまでも職員を信用してきました。そのことは、これからも変わりありません。このような事態のために、職員がやる気を失ってしまうことのないよう、お願いするとともに、これまで以上にしっかりと仕事をすることで、市民の信頼を取り戻すよう、頑張ってください。

最後に、事件を起こしてしまった職員に責任はありますが、組織としての責任もあります。私はしっかりとやっているから大丈夫、関係ないということではなく、一連の不祥事をすべての職員が自分のことと捉え、今後、一人たりとも、こういった事件を組織の中から起こしてはなりません。繰り返しますが、二度と起こさないよう、お互いに注意し、職員、そして組織が一丸となって、取り組んでいただきたい。

以上、私からの訓示といたします。